

特集 …「海外留学体験記 in ドイツ」

入学したときから留学の準備を
始めていた

留学でできたつながりを実感

留学は研修期間みたいなもの

★特集は裏面へ★

〈留学〉

するも
しないも
覚悟のうえ。

まずは短期留学をおすすめ

しょうようかん

京都大学 吉田南総合図書館（愛称：逍遙館）

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel：075 (753) 6524, 6525

Fax：075 (753) 6896

Email：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP：http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/

Blog：http://yoshidasouthlib.hatenablog.jp/

Twitter：@yoshidasouthlib

HP



Blog





<ご注意！>図書館の外壁等工事が始まります

ご迷惑をおかけします

図 書 館 外 壁 等 を
な お し ま す

平成28年1月末まで(予定)
朝 8:00 ~ 夕方 6:00

ご協力を
お願いします



10月中旬から工事が始まります。

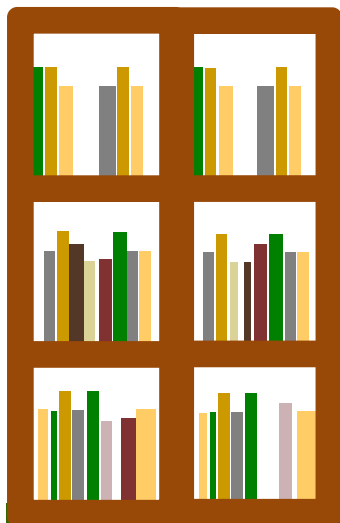
工事期間中は、2Fバルコニーをご使用
いただけませんが、蓋付の飲み物は
館内閲覧席等で摂取いただけます。
※ただし OSL コーナーを除く

騒音、振動、塗料や接着剤の溶剤の
においなどで、ご迷惑をおかけする
ことがあります。ごめんなさい！



* 南棟2,3書庫の配置が変わりました *

南棟書庫2, 3にある洋書(新分類)の配置を変えました。
・請求記号が「9」で始まる図書は、吉田南総合図書館B2
書庫(西)に
・請求記号が「7」「8」で始まる図書は、南棟書庫3に
・大型図書は、南棟書庫3の大型図書コーナー(新設)に
移動しました。今までとまったく違う場所に移動した図書
もあるので、普段よく利用している図書でも一度KULINE
で検索 → 新しい配置場所を確認してから書庫に入って
ください。マップも新しくしていますので、そちらもぜひ確認
してください。よろしくお願いします。

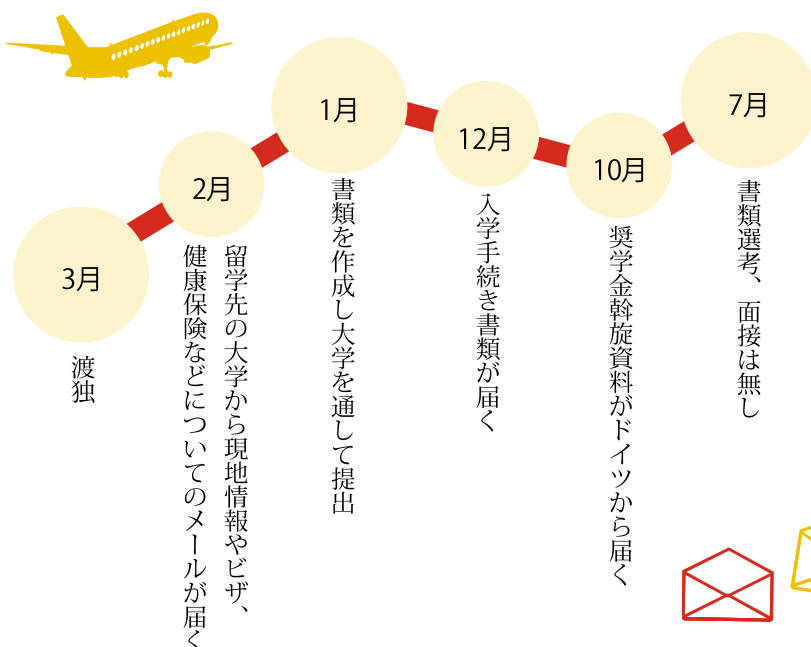


海外留学 体験記

プロフィール

M・Yさん 文学部四回生
研究テーマ…西洋哲学史専修 哲学（懐疑論）

準備から留学までの流れ



「留学は研修期間みたいなもの」

二〇一四年春から一年間ドイツのハイデルベルク大学に留学されたMさんに、長期海外留学についてお話を伺いました。

「留学先にドイツを選ばれたのはなぜですか？」

現在は哲学を勉強していますが、大学に入ったころはドイツ文学をやると思っていました。高校生の時に、ゲーテの『ファウスト』を読んでとても感動して、この作品をもっと読み込んでいきたいと思い、それができるのはドイツ文学研究だ！と。ドイツ文学を研究するんだつたら実際ドイツに行ってみるのが良いだろうと思っていたので、入学した時から留学の準備を進めていました。二回生の時にドイツ文学から哲学に転向しましたが、この時点で留学の準備はある程度できていましたし、哲学研究においても留学は糧になるだろうと思いました。

留学することに抵抗は無く、高校時代から留学に対して漠然と憧れがありました。大学生になるまで台湾への旅行ぐらいしか海外経験が無かったので、長期間ヨーロッパに行ってみたいと思っていました。いろんな手段があるけど、大学生だから留学がいいかなと。

「留学の準備について教えてください」

京都大学の留学制度を利用しました。文学部のHPに募集要項が出て、成績証明書、先生の推薦状、語学証明書、志望動機といった書類を用意しました。一年に二度募集があって、最速で学部二回生の夏から行けます。僕は三回生で行こうと思っていました。というのも、二回生から行くと履修登録がややこしくなるかなというのがあって、それで半年遅らせました。ドイツの大学は十月始まりで、前期（十月・三月）と後期（四月・九月）に分かれています。僕は後期から行く感じになったため、途中から来て途中で帰る感じで、通年の授業がとりづらかったですね。京大の授業とドイツで受ける授業を考えて、行く時期を考えた方がよいと思います。

事前準備としてはおおまかに、①事務手続き②国際感覚を養うこと③語学力を伸ばすこと、の三点でした。留学する一年前くらいから実質的な事務手続きが始まります。力を入れたのは「奨学金」関係です。向こうでお金に困らないようにと思い、JASSOとその他の財団の奨学金をもらっていました。

国際感覚を養うことに関しては、本格的に留学する前にライプツィヒ・ヘルダーインスティトゥット③に一月間短期留学しました。このおかげでリスニング力が伸び、ドイツで暮らす様子を少しでも知れたのが良かったんです。

「語学力を伸ばすために、どのような勉強をされていましたか？」

一回生の時はドイツ語の授業を週に六コマ、二回生では「ドイツ語六時間コース」を週三コマ、九・十月にライプツィヒに短期留学して、十月からゲーテ・インスティトゥット③で三か月ドイツ語の勉強をしました。とりあえずいろいろやってみよう、という感じでした。一回生は普通、授業が週に十五コマくらいと思うのですが、僕の場合そのうち半分はドイツ語だったことになります。もっと他の授業も取っておけば良かったとは思いますが。

短期留学から帰ってきた後は、ネイティヴの先生が言っていることがそれまで以上に分かるようになったし、自分が何か話す時も、言いたいことを話せるようになりました。結構できるようになったなと思っていましたが、思いつきで話した（笑）。語学力は、授業の数じゃなくて、自分でどれくらい勉強したかによります。僕は自分ではあんまりしてませんでした。もっとやっておけば良かったと、今は思います。それでも一か月留学すると、「留学ってこんな感じかな」という感覚がつかめたので、長期留学に行くまでにやることも明確にすることができました。

「留学先ではどのような勉強をされていましたか？」

ドイツ語の授業を主に受けていました。留学生向けの授業がいくつか提供されていて、週五コマくらいはそれに当てられました。他の国から来た人とグループディスカッションをしたり、交流したりできて楽しかったです。また、半年に一回行われるドイツの大学・大学院に入学するための語学試験④があるので、そのための対策もしていました。過去問ではないのですが、その試験に向けた授業があって、週四コマとっていました。哲学の授業も一コマとっていました。ゼミ形式で、予習復習に時間がかかりましたが、参加者が

議論しているのを聞くのは面白かったです。授業中は発言しなかったんですけど、議論についていくのが精いっぱいでした笑。まだまだ自分の語学力不足を痛感しました。最初の半年はそんな感じでしたが、残りの半年は思い切って授業数を減らして、自由に動ける時間を取ることにしました。

「留学でできたつながりを実感」

―授業以外ではどんな活動をされていましたか？

日本語を勉強しているドイツ人学生と週に何回か会って言語交換をしていました。ドイツの大学ではそんな活動を「タンデム」^⑤と言います。最初の半年は一人と週に二、三回、残りの半年は二人と週に一回ずつ会っていました。タンデムの形式は基本自由ですが、まずちよつとした雑談をドイツ語または日本語でして、大体一時間くらいで区切りをつけて言語をスイッチするという感じでした。雑談から議論のテーマを見つけたり、そのままずっと雑談をしたりと様々でした。この活動はドイツ語の勉強にもなるし、日本語を教えることで、自国の言語についても発見があつて楽しかったです。

タンデムを記録につけて提出すると単位になる授業もあつて、モチベーションにつながりました。自由度が高くて、本人次第のところもあるし、大学としても活動を奨励しているんでしょうね。自分たちで日常的にやっている勉強が単位として認められるので、やる気も上がるし、気持ちも引き締まるし、とてもいい制度だと思いました。自己学習意欲を伸ばすために、学生がどうすれば勉強するのか、大学側もよく考えているんだなと思いました。

―どのような話をする事が多かったですか？

何より楽しかったのは、同世代のドイツ人と、人生観などあまり授業で話せないような真面目な話がたくさんできたことです。人数は少ないですが、ドイツ人の考え方や生きた文化を学ぶことができたように感じました。留学して、自分の今まで持っていたドイツのイメージは常に変わり続けました。大学の授業の中では深い話ではないし、交流の時も普通のコミュニケーションに終始します。でも向かい合つて話していると、割と真面目な話もするし、自分の意見も言うし、相手の意見も聞ける。平たく言うと「国際感覚」(もしくは「ドイツ感覚」)を学べたと思います。

タンデムについては相手との相性もあると思います。僕の場合は、哲学と宗教を学んでいる人と組めたので、共通項がありました。学習面や人間的な共通面がある方とうまく会えて、言語交換が

できると有意義ですね。お互いシンパシーが無いと長続きしないし、良い出会いができて良かったです。国籍の違う人と対峙して、違う価値観を肌身で感じました。一人一人違うのは当たり前ですが、違う価値観と触れ合うことで、良い人生経験ができたと思います。今、タンデムで知り合った人が京大に来ていて、ドイツに留学していたのように週に二、三回会っています。人とのつながりが生きているというか、留学したことのできたつながりを実感します。

―留学中はどんな風に一日を過ごされていましたか？

基本的には日本にいた時と一緒です。授業に出て勉強して、空いた時間にドイツ人の友人と会ってお互いの言語について教え合つたり(タンデム)、町を散策したり、旅行したり、博物館に行ったり、人生について考えたり。また、体を動かすのに古武道をしていました。週に一度マンハイムで、月に一度ハンブルクで槍術を習っていました。ハンブルクにはバスで八時間半かけて通いました笑。寮は入学手続きの時に申請して、安いところを大学に斡旋してもらいました。月二百十五ユーロくらいで、食費と合わせて三百ユーロくらいで生活できました。

「まずは短期留学をおすすめ」

―ハイデルベルク大学について教えてください

ドイツ最古の大学で、人文学と自然科学に強い名門大学です。ドイツの大学は日本みたいに偏重値で区分されていないくて、レベルは大体一緒だと思います。ドイツでは、大学に進むことは当たり前ではなく、専門学校に行く人も多いようです。だから目標をきちんと持つて大学に行く学生が多く、真面目な人が多いと感じました。国が大学にお金をかけているので、学費も安いし、制度面も整っていると思います。

附属図書館は、朝八時から夜一時まで開いていました。建物が古く、大きく、建築が素晴らしかったですね。各学部ごとの図書館もありました。書庫の本は貸出ができましたが、新しい本や利用の多い本は貸出できないようになっていて、各自でコピーやスキャンをとる方式でした。パソコンルームがあり、コピー機やスキャナも置いてありましたが、有料でしたし、台数が少なく、不便に感じましたね。閲覧室に行く時はロッカーに荷物を入れて、透明の袋に必要なものを移して入らなくてはいけませんでした。閲覧室の入口に門番みたいな係の人が座っていて、余計なものを持ち込んでないか、本を無断で持ち出していないかをチェックしていました。ロッカールームも

ありましたが、試験前は利用者が多いのではぼ埋まっていたね。

―実際に留学してみte思ったことは？

まずは短期留学することをおすすめします。留学は、自分の周りの環境や、人間関係も変わるので、しんどいと思うかもしれません。いきなり長期で行くより、試しに一月くらい行つてみて経験したことを次の長期留学に生かす方が良いと思います。より実りがあるし、精神的にも楽だと思いますね。

現地に行つてからは、日常的な気分転換が大事だと思いました。

留学は楽しいけれど、今までと違う場所で生活すること知らず知らずのうちに疲れてくる。僕の場合、読書したり、日本茶を飲んだりしていました。日本茶を飲むことは意外と良かったです。

―留学を終えて得たものは？

「一年間海外で過ごした経験」が大きいです。「ドイツ語能力」「異文化適応能力」「コミュニケーション能力」といったものの向上と言うこともできますが、今の時点でははっきり言葉にできないというのが正直なところです。プラスの経験と同時にマイナスの経験もあり、「なぜこぜになつているもの」が大事というか…。得たものを列挙するよりも、これから「留学した経験を生かしていこうとする」ことが、得たものと言えるのかもしれません。留学は研修期間みたいなものかなと。研修を終えて、実地に出て、初めて何をできたかを知る。ドイツで経験したことを日本に帰つてきてから生かして初めて「何かを」得たと言えんじやないか。自分はそう思っています。

―留学を考えている人へメッセージを

今は、自分が留学したいと思えば、サポートが整っています。それを積極的に使いましよう！僕個人としては、留学という選択は良かったと思いますが、選ばない選択もある。しなきゃいけないというものでも無い。でも留学したいと思つている人にはしてほしい。大変なこともあるけど、大きな経験になるし、無駄にはならないと思います。留学する前と後では、自分自身が変わります。でも、変化を楽しむというか、変わつていくことは生きていくということであつて、留学は生きていく中で行うひとつのオプションなんだという位置づけで考えていただければと。大事なのは、留学した経験をその後の人生でどう生かすか。自分なりにしっかりと考えて、覚悟を決めて行動してみてください。その気になつて一歩踏み出せば、留学はできます。肩ひじを張る必要はないです。健康に気をつけて、行つてみてください！

―ありがとうございました

注 (1) JASSO：独立行政法人日本学生支援機構。http://www.jasso.go.jp/ (2) ライプツィヒ・ヘルダーインスティトゥート：Inter-DaF。ライプツィヒ大学附属の語学学校。http://www.interdaf.un (4) 語学試験：DSH。ドイツの大学入学の際の語学試験。http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students3/guide/siken.html (5) タンデム：2人乗りの自転車＝2人で何かを行うという意味



Follow me ! “@yoshidasouthlib”



グレート・ブックス読書会…今回のテーマはハイデガーの『存在と時間』！

コーディネーターに 山口 尚 先生(国際高等教育院 非常勤講師)をお迎えし、「ハイデガーの『存在と時間』—「気づかう人(homo curans)」としての人間」をテーマに開催します。

日時: 2015年10月23日(金) 18:10-19:40

場所: 環on(人間・環境学研究科棟1階東側)

書名: 『存在と時間』1・2・3

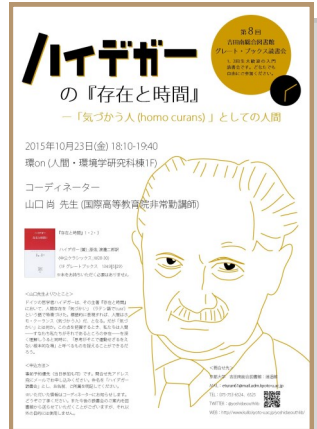
ハイデガー [著]; 原佑, 渡邊二郎訳 (中公クラシックス; W28-30) <1F グレートブックス134.9||S||29>

※本をお持ちいただく必要はありません

申込方法: 事前予約優先(当日参加も可)です。件名を「ハイデガー読書会」とし、お名前、ご所属を明記のうえ

eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

宛にメールでお申し込みください。



今年もやっちゃいます！リクエストキャンペーン

蔵書のタネ、募集します！

京都大学吉田南総合図書館：逍遙館 読書週間企画

応募期間: 10/26-11/10 リクエストのタネをまいてください

選定期間: 11/11-11/13 楽しみにお待ちください

結果発表: 11/16-11/30 購入決定資料には芽が出ます

10/26
START!

詳しくはポスター、
当館ウェブサイトで！

◆15分でつかむ Web of Science 講座◆

開催日時: 11月2日(月)~6日(金) 16:30-16:45
先行研究を調べるときに便利な論文データベースWeb of Science。

自然科学・社会科学・人文の幅広い学術情報を網羅した便利なデータベースです。知って得するWeb of Scienceでの論文検索のコツを15分でご紹介します。

★場所: 吉田南総合図書館1F 調査・相談カウンター前

★申込方法: メール、または当日直接会場にお越しください。

メールでお申込みの場合は件名を「WoS講習会」または「新聞検索講習会」とし、氏名、学生証(職員)番号、希望する日時を記入のうえ eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp までお送りください。

◆15分で習得！新聞検索講習会◆

開催日時: 11月9日(月)~13日(金) 16:30-16:45

新聞は時勢を読み解く第一級一次資料です。論文や研究で使うために新聞記事を探す例を紹介しながら、新聞の種類と形態、その特色、京大生が使える便利なデータベースの紹介、そして役立つサイトをご紹介します。

15分で新聞の使い方を習得してください。

開館日程表

10月



■ 8日(木) 夏季特別貸出返却期限日

■ 23日(金) 18:10-19:40
グレート・ブックス読書会「ハイデガーの『存在と時間』—「気づかう人(homo curans)」としての人間」

蔵書のタネ、募集します。

REQUEST CAMPAIGN
10月26日(月)START★

11月

■ 2日(月)~6日(金) 16:30~16:45
「海外論文ここから探せ！ 15分でつかむ Web of Science 講習会」
■ 9日(月)~13日(金) 16:30~16:45
「15分で習得！ 新聞検索講習会」
■ 20日(金)~23日(祝)
第58回 京都大学11月祭



「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室: 平日9:00-17:00

本館の定例休館日も開室

休室: 土日祝日ほか

(本館の休館日と同じ)

9:00-20:00

00 10:00-15:00

00 休館(日・祝日) 00 定例休館日

10

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12

12月29日-1月3日: 冬季休館

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		